

第151回 エフエム栃木放送番組審議会 議事録

1 開催年月日 平成21年7月16日(木) 11:00~12:30

2 開催場所 宇都宮グランドホテル

3 委員の出席 委員総数 8人  
出席委員数 8人

出席委員の氏名 青木 敬信(委員長)  
早川 富美子(副委員長)  
片岡 真理  
片山 貴之  
古磯 勝子  
島田 恭子  
須賀 英之  
森内 律子

欠席委員の氏名 (欠席者なし)

放送事業者側出席者 村岡 大学(常務取締役営業・事業部長)  
池田 喜一(取締役放送部長)  
佐藤 望(放送部部長代理)

4 議題 番組の試聴及び意見交換

5 議事の概要 (1) 番組の試聴及び意見交換  
(2) その他  
(3) 次回開催日程について

6 議事の内容

(1) 番組の試聴および意見交換

6月21日(日)8:00~8:55に放送した自社制作番組「コスモアースコンシャスアク  
ト・クリーンキャンペーン in 塩原温泉」の試聴と意見交換を行った。

事業者 JFN各局では、毎年、地球環境をテーマにしたクリーン活動を実施しています。エ  
フエム栃木におきましても、2001年の活動開始から連続して実施してきましたが、  
今年、6月7日(日)に塩原温泉地域の6か所で清掃活動を実施したほか、ヤマメつ  
かみ取り体験などのイベントを実施しました。本放送は、このクリーンキャンペーンの  
模様を55分の特別番組として放送したものです。本日は、20分程度のダイジェスト  
版を試聴していただき、ご意見を伺いたいと存じます。

委員 番組の中で、どうしてこんなにゴミを捨てる人がいるのだろうか、捨てる人がいなか  
れば捨てる人もいなくてすむのにと、本当に考えさせられた番組であった。オープニング

の音楽はとてもさわやかで、日曜の朝の雰囲気にはとてもいい感じで始まったと思う。最初に小学生に対するインタビューの中で、キャンペーン参加のきっかけがCMやネットなどで聞いたといていたが、小学校での総合学習、学校教育の成果が地域活動につながっていると改めて感じた。参加者のゴミを拾う大変そうな息づかいやごみの重さが声を通して伝わってきて、とてもいいところをとらえた編集であった。4歳の子どもと一緒に参加した家族であるが、家庭でゴミ問題を教育するとか、ゴミ収集後のイベントを楽しむといった良い家庭の雰囲気が伝わってきたが、ゴミ拾いということにむなしさも感じた。番組の最後で一人一人の感想をまとめて放送していたが、とても思いが伝わってきて、番組全体の編集の仕方はとてもよかった。

委員      キャンペーンに多くの人数が集まるんだな、ということにメディアの力と人々のゴミ問題に対する関心の高さを感じた。番組全体として教訓的または押し付けではなく、参加者の達成感や心の満足を素直に伝わってきた。演出やストーリーを付けずに素直に編集したのは良かった。このキャンペーンを一過性のものとせず、地域のボランティアや行政などの日ごろの苦労や声を紹介しながら、これらの人々を励ますような部分があったなら、なお良かったかなと感じた。

委員      こういう番組は必要だなという感じがして、企業とメディアが共同してこうしたキャンペーンを行うことができ大変良かった。番組の構成も押し付けがましくなく、素直で良いと感じたが、粗大ごみの不法投棄に関しては、これでいいのかなとも感じた。ゴミを拾うというイベントではあるが、不法投棄に関しては誰が見ても怒りを感じるものだと思う。大きな怒りを感じた人もいたのではないかなと思うので、こうした“怒り”を表現したほうが良かったのではないかな。そのメッセージが伝わってこなかったのもっと伝えてほしかった。皆で不法投棄に腹を立てることによって、こうした行為をさせないという姿勢を伝えるべきではないかなと思う。また、子どもたちの参加前と参加後の感想を聞いたかった。イベントでの魚のつかみ取りは、個人的には好きではない。放流した魚をつかみ取りすることで、それが自然な姿だと錯覚させる危険性もあるので違和感を感じる。

事業者      これまでイベントとしてハイキングなども実施してきたが、多くの人々、特にファミリー層の参加を促すためのイベントをどうするか、毎年、頭が痛いところである。危険性を回避することや安全面の確保などの工夫が必要である。ゴミの不法投棄に関しては、こうした活動を通して、不法投棄をさせないことや行政を動かして行く方向につながっていけば良いと考えている。

委員      メディアの役割として地球環境をテーマにした番組はすごく大切だなと感じた。参加した子ども達の感想を聞いていると、子ども達の将来のためにもっと環境を良くしなければならぬと感じた。こういったイベントに年々参加者が増えているのは、ゴミ問題に対する関心が高まっている表れであり、こういった番組で取り上げることによって、我々の意識ももっと変わってくるのかなと思われ、今後ともこうした取組み・番組を継続するよう求めたい。

委員      ごみを捨ててはいけないということリスナーに考えてもらうメッセージとして、とても良いことである。番組の中でごみの投棄に対する“怒り”の声が少しあったが、もう少し伝えても良かったのではないかな。こうした番組を通して、地球環境を守るメッセージを伝えていければいいなと感じた。来年実施する際に、今年実施した場所と同じ場

所で実施して、ごみがどうなったか検証してもいいのではないかと。一年前にこんなに多くのゴミがあったのに、もしゴミがなかったら、とても素晴らしいことだと思う。

委員　ごみ問題に関しては、いろいろな人々が、いろいろな活動を実施しており、こうした各地での活動を番組の中で紹介することもいいのではないかと。こうしたことにより、より広がりのある番組になるのではないかと。

委員　DJ の声やトーンが好感が持ててとても良かった。番組の構成としても怒りの声を入れることも大切だと思うが、リスナーとしては、現場の臨場感あふれる息遣いや子供たちの感想など、ゴミ問題に対するメッセージが伝わってきた。メディアがメッセージ性のある番組を放送することは、大変素晴らしいことであるが、来年どういうふうに進展させるか興味があるところであり、今回と同じ内容では進歩がないと思われる。また、イベントは、魚のつかみ取りではなく、子供たちに自然を体験させるものにしたほうが良いのではないかと。

委員　善意の人々の活動を放送することにより、そういった人たちの存在を知らせることや活動の輪を広げることになり、とてもさわやかな感じがして貴重な番組だなと感じた。また、番組としては、大変な思いをしてゴミを集めている感じがあまりなく、きれいですっきりとしたものにまとまっている。これは放送のテクニックかもしれないが、ごみを収集している人たちが大勢集まっているという気配が少し伝わってこなかったかなと感じた。クリーンキャンペーンに大勢の人たちが集まり、活発に活動し、達成感を感じていたことを電波に乗せて伝えることは、それを聞いた人たちにも大きな影響を与えたのではないかと感じた。

( 2 ) その他  
特になし。

( 3 ) 次回開催日程について  
次回の開催を9月10日(木)にすることについて、全委員の了解を得た。

7 答申または改善意見に対してとった措置および年月日

なし

8 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日

( 1 ) 放送：7月26日(日)午後9時55分の「レディオベリー インフォメーション」内。

( 2 ) 書面：本社事務所に備え置き。

( 3 ) インターネット：エフエム栃木ホームページ内。

9 その他の参考事項

なし